

看護の力

ホスピス緩和ケアの現場では、様々な課題に対してチーム医療で対応しています。そのなかでも看護部門の働きは重要です。ホスピスケアは『寄り添う』ことであり、看護は業務でなく援助することであるという考えで14年間活動してきました。今回は緩和ケア病棟の質について、東北大学の研究結果を報告します。この研究は全国の緩和ケア病棟100施設の遺族の皆さんのアンケート結果を分析したもので、当院緩和ケア病棟は全国の中でも高い評価でした。

谷田典子 (看護部長)

看護部では「専門的な知識・技術と豊かな人間性をもって安全で安心感・思いやりのある看護を提供します」という理念のもと、外来・一般病棟では地域に根差した病院としての役割が果たせるような看護を提供することを目標にしてきました。また緩和ケア病棟ではがん患者様がより良い生活が送れるようにとケアを行ってきました。

今後、高齢化社会を迎えるにあたりこれからの目標を2つ上げています。1つは外来や病棟で在宅療養に必要なケアを提供し地域の医療福祉関係者とも積極的に連携をとっていくことで、高齢者の方が住み慣れた地域・家族や仲間と暮らしながら療養ができるようにことです。

2つ目は、緩和ケア病棟で学んだ終末期のケアをがん患者様だけではなく非がん患者様の終末期ケアにも生かしていくことです。私たちは今まで患者様やご家族から多くのことを学ばせて頂きました。知識・技術にそれらの学びを活かし緩和ケアを行ってきました。先日行われた緩和ケア病棟の遺族調査で、日頃より大切に行ってきたケアがよい評価をいただけたのはその結果ではないかと感じています。この結果を励みにこれからも研鑽を続けていきたいと考えています。

この度2つの大きな目標を挙げていますが、看護の役割は時代の流れとともに変化してきます。その変化に対応できるように看護師個人の看護力を強めるとともに、個々の力を最大限に活かすために組織の力を強めることも必要になります。組織力を高めるための第一歩として今年度初めて看護部全体で協力をして看護の日のイベントを行い成功させました。これからも看護部での様々な取り組みを行い組織力・チームワークを強化していきたいと考えています。

看護部では個々の力と全体の力をうまく調和させ、患者の皆様にも最良の医療が受けられるように安全で安心感・思いやりのある看護を提供して行きたいと思っております。



看護の日 平成28年5月12日(木)

近藤内科病院看護部では初めて、ナイチンゲール生誕日の5月12日(木)にマルナカ徳島店で看護について、一般の方に広く知っていただくイベント(健康相談)を開催しました。

スタッフも、看護のイベント開催は始めてした。開催日までには、病院の協力も得て、運営委員会を開き、幟やエプロンの借用準備に始まり、配布物品の購入準備、健康相談の実施項目をどのようにするか、当日の必要備品は、搬入方法はとする等、何度も検討をかさねました。

当日、危惧していた天候は晴天、病院と隣接しているマルナカ店へは必要な物品をスムーズに運ぶことができました。しかし、イベントでのアクシデントはつきもの、事前に開催場所の確認もしていたのですが、業者が数名おり、事情を説明すると、快く場所を変わってくれました。

当日の参加メンバーは医師、栄養士、MSW、看護師を含む総勢14名です。

おそろいのピンクのエプロンを着用し、容易万端です。スタッフはお客様を待っていたのですが、誰も来ていただけません。そこで、誰が言い出したわけでもなく、声をかけ始めました。病院での対応と異なり、お客様に声をかけるのもとても気恥ずかしく「どうしようか」「なんて声をかけようか」と考えてしまいますが、勇気は湧いてくるものです。来られているお客様に「いかがですか、血圧など測られませんか、健康相談をしていますよ、お買い物のついでに、健康チェックされませんか?」と声をかけはじめました。お客様が少しずつ来られるようになったのも、つかの間、すぐに誰もいなくなります。その時、店舗内に宝くじの管内放送が流れてきました。これを、ヒントに私たちもイベントの案内放送をすることにしました。若い看護師の一人が、「今、看護の日のイベントの健康相談をしています。」と放送させていただくことができました。その後、は少しずつお客様が増えていきました。看護師以外の協力者も大きな戦力でした。MSWの方は写真係を、医師3名も診療時間を調整しながら交替で健康相談を、管理栄養士はサンプル食品を使いながら栄養相談をおこなってくれました。

看護師が行う、体組成測定・血糖測定・血圧測定なども好評で、総数102名の方が利用して下さいました。



たくさんの方の協力を頂き、看護の日のイベント「健康相談」を無事に終えることができました。

終了後に行われた、反省会でも次はこんな工夫を等、新しい企画案も浮かび、物事を成し遂げた達成感を感じた一日となりました。

後日、院長主催による打ち上げコンパを開催していただき、ストレス発散法や趣味等の話題で盛り上がり楽しい時を過ごしました。行事イベント・コンパの開催は様々な意味で、看護部の組織強化につながり、看護師のモチベーションをあげることができます。看護部では次年度も開催したいと考えています。



第3回 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 (J-HOPE3)

調査結果より

*J-HOPE研究は、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団事業として行われている。*2007年・2010年に続き今回が3回目の調査。*方法は日本ホスピス緩和ケア協会会員施設の一般病院や緩和ケア病棟や診療所で亡くなられた患者様のご家族にアンケート調査を実施*目的:我が国におけるがん患者へのホスピス緩和ケアの質を遺族による評価を用いて経時的に調査し、ケアの質の保証及び向上に貢献すること

当院緩和ケアで大切にしていること

- **症状コントロール**
疼痛・倦怠感・呼吸困難感などの症状が軽減されている
- **日常性の維持**
*基本的欲求が満たされること(食事・睡眠の確保・清潔保持・排泄の自立など) *社会とのつながりが持てること(各種行事・ティーサービス・趣味・外出外泊)
- **人として尊重されること**
*その人らしく生きていける(価値観・今までの生き方・希望・他者との関係性)
- **家族のケア**
当院で大切にしていることが調査結果でどのように評価されているかを項目別にグラフ化した。グラフ中の全体とはアンケートを実施した全病院、PCUはアンケートを実施した全緩和ケア病棟の結果。

第3回調査の対象者

患者背景

	全体	PCU	近藤内科病院
性別	男:女 57%:43%	56%:44%	47%:53%
年齢	平均±SD 73.5±11.6	73.8±11.5	71.2±12.1
入院期間	平均±SD 42.0±73.4	38.4±51.0	37.4±30.3

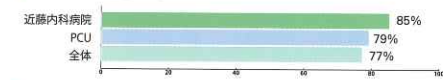
遺族背景

	全体	PCU	近藤内科病院
性別	男:女 32%:64%	33%:64%	27%:73%
年齢	平均±SD 61.6±12.1	61.5±12.2	62.6±12.0
続柄	配偶者 45%	43%	49%
子	35%	37%	36%
婿・嫁	6%	6%	4%
親	2%	2%	5%
兄弟姉妹	6%	7%	4%
その他	3%	3%	2%
回答率	67%	69%	70%

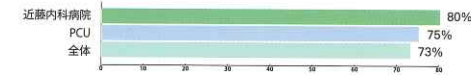
症状コントロール

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

●痛みが少なく過ごせた



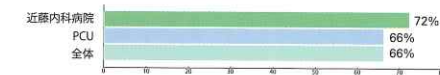
●からだの苦痛がなく過ごせた



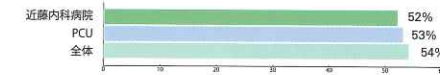
日常性の維持①

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

●自然に近いかたちで過ごせた



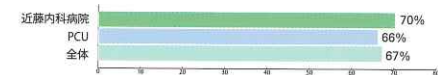
●人に迷惑をかけてつらいと感じていた



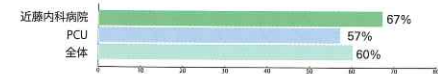
日常性の維持②

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

●家族や友人と十分に時間を過ごせた



●望んだ場所で過ごせた



日常性の維持③

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

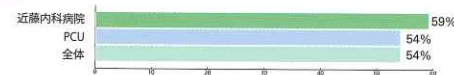
●病室は使い勝手がよく、快適であった



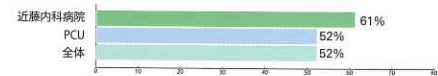
人として尊重されること①

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

●人生をまっとうしたと感じていた



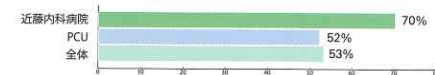
●大切な人に伝えたいことを伝えられた



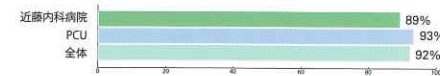
人として尊重されること②

数字(%)は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計

●生きていることに価値を感じられた



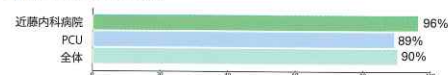
●ひととして大切にされていた



遺族の悲嘆に関する評価

数字(%)は「多少大変である」「かなり大変である」の合計

●患者の死の受け入れ



数字(%)は「多少ある」「かなりある」の合計

●悲嘆による生活の支障



～ Information ～

●第10回のホスピス緩和ケア週間を10月より開催します。

前夜祭の野外コンサートでは屋台も出て皆さまの参加をお待ちしています。

また、今回パネル展では「がん相談」ブースももうけておりますので気軽に立ち寄ってください。

ホスピス緩和ケア週間

in TOKUSHIMA

2016

10月8日は「世界ホスピスデー」です。これにあわせて、日本ホスピス緩和ケア協会では10月2日～8日を「ホスピス緩和ケア週間」とし、全国のホスピスでは様々なイベントが開催されます。徳島県では「ホスピス緩和ケア週間inTokushima2016」として、下記のイベントを開催します。



オレンジパルーン

前夜祭 野外コンサート

平成28年10月1日(土)午後1時30分～

場所:近藤内科病院 ホスピス緩和ケアガーデン *雨天時は緩和ケアラウンジに変更

合唱:女性合唱団「鸞」、アンサンブルわかば フルートとピアノの調べ:大江浩司様、松尾京子様
各種屋台が出ます

ホスピス緩和ケア パネル展/がん・緩和ケア相談

平成28年10月1日(土)～

場所:スーパーセンターマルナカ徳島店、徳島県庁、徳島赤十字病院

徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院、徳島県立三好病院、近藤内科病院

第3回徳島がんリハビリテーションネットワーク研究会

平成28年10月22日(土)午後7時～午後9時

場所:徳島市医師会館 4F 大会議場

講演:「メンタルケアとコミュニケーション」

講師:内富庸介先生(国立がん研究センター中央病院支持療法開発センター)

主催:NPO法人ホスピス徳島がん基金、近藤内科病院

共催:徳島大学病院、徳島赤十字病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院、徳島県立三好病院

徳島市医師会、かさまつ在宅クリニック、徳島往診クリニック、がんフレンド

お問い合わせ:近藤内科病院 663-0070

皆様からのご意見をお待ちしております

わかば通信に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

本広報誌をより良くするために皆様からの率直なご意見をお寄せ下さい。

[近藤内科病院 広報委員会]